

第90回福島県災害対策本部会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年4月14日（木） 10:07～10:31
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内 容：

松本副知事：

- ・ 本日の会議について、知事は政府の復興構想会議出席のため上京しているので欠席する。

（1）最新の被害状況について

事務局：（第106報のとおり説明）

- ・ 避難の状況について、いわき市において余震の影響により400名増。
- ・ 被害の状況について、死者は14名増、行方不明者は11名減。
- ・ その他 NTT 回線について、富岡の基地局が改修されたため、18,000回線の不通が回復した。

（2）モニタリング結果について

生活環境部次長（県民安全担当）：（別紙モニタリング1～3のとおり説明）

- ・ 数値はいずれも横ばい傾向又は低下傾向が続いている。

（3）「福島県被災者情報集約・双葉郡支援センター」の状況について

文化・スポーツ局長：別紙資料により説明

- ・ 昨日、所在確認に至ったのは280件（累計1,935件）。
- ・ 入居者の入居者問合せ状況は、122件の相談が寄せられ、24件の情報提供を行った（累計893件）

（4）二次避難実施スケジュールについて

企業局長：別紙資料により説明

- ・ 本日は、南相馬市、楢葉町、富岡町、双葉町、浪江町について二次避難をすることによって予定数が202となっている。本日の予定も含め、累計として11,000人を超える方々が二次避難をしている。

松本副知事：

- ・ 日によって二次避難の進み方が異なる理由は何か。

企業局長：

- ・ 富岡町について少ない状況であり、配分枠に対して余っている。ビッグパレットの過密の解消のためにも二次避難を進めていく必要があると思うので、町と相談して進めていきたい。

松本副知事：

- ・ 住民の方々の意向も踏まえて進めてください。

(5) 緊急時被ばくスクリーニングについて

保健福祉部長：別紙資料により説明

- ・ 4月12日（火）については、1,887人のスクリーニングを実施（10万 cpm 以上はなし）。
- ・ 本日も、10市町11箇所を実施する。

(6) 放射線に関する相談窓口の状況について

企画調整部長：別紙資料（第28報）により説明

- ・ 235件の相談を受け付けた（前日比+16）。学校生活、ストロンチウムの検出の関係等の相談が多い。
- ・ 主な内容としては、学校生活における基準が10ミリシーベルト、計画的避難の基準が20ミリシーベルトという報道があり、両者の整合の関係で保護者が混乱している。
- ・ また、ストロンチウムによる健康への影響や妊婦からの相談があった。

(7) 農林水産業に関する相談窓口について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・ 189件の相談を受け付けた（前日比+30）。
- ・ 主な内容としては、ストロンチウムによる農作物への影響、水稻作付後の販売面での心配があった。
- ・ また、露地物の原木シイタケについて規制が行われているが、施設内での菌床シイタケの生産者が今までできていた関東への出荷ができなくて困ったという相談があった。
- ・ その他、首都圏での風評被害防止のためのイベントを手伝いたいとの申

し出があった。

(8) 避難住民に係る住宅対策について

土木部長：別紙資料により説明

- ・ 7月末までに「応急仮設住宅の供給」、「民間住宅の借上げ」、「公営住宅空家の提供」により20,000戸を目指しているが、今般の「計画的避難区域」の設定等を踏まえ、新たに15,000戸を加えることとした。
- ・ 追加分については、7月末以降できるだけ早い時期に供給していく予定。また、内訳は資料のとおり。

松本副知事：

- ・ 今回の追加の要因は、津波による住家被害が明らかになってきたこと、計画的避難区域及び緊急時避難準備区域の設定、さらには県外避難から県内に戻ってこられる方々が見込まれるため。
- ・ 7月末までに20,000戸の予定で進めているが、追加分の15,000戸については時間を要するため、7月末以降できるだけ早い時期に提供が図られるようにしたい。

(9) 警察における行方不明者の搜索実施状況について

県警察山田警備部長：別紙資料により説明

- ・ 警察で把握しているデータに基づくもの。また、搜索に当たっては、消防、自衛隊など関係機関による合同作業によるもの。
- ・ これまで、30km圏外、20～30km圏内、10～20km圏内と進めてきたが、本日から10km圏内の搜索を進める。本日の具体的な搜索地区は、行方不明者の多い浪江町の請戸地区で、双葉広域消防と合同で300人体制で実施する。
- ・ 今後の課題は、膨大ながれきや廃材等へ対処するための重機の確保・使用である。

松本副知事：

- ・ 非常に厳しい任務だと思うが、よろしく願いしたい。

(10) その他

松本副知事：

- ・ 今回、学校登校基準10センチメートルという報道があったが、県民の関心が高

い、不安に思っている情報については、国においてわかりやすく十分な説明をお願いしたい。

オフサイトセンター（原子力安全・保安院平岡次長）：

- ・ 情報の混乱について、申し訳なく思う。
- ・ 学校登校基準10ミリシーベルトの情報については、原子力安全委員会が正式に助言したことはなく、検討している段階である。
- ・ この件については、文部科学省において整理して県に示さなければいけないものであると考えており、引き続き要請していく。
- ・ 誤解があったことについては、お詫び申し上げます。

佐藤議長：

- ・ 原発事故以来、国に対し、想定していなかった分野についても基準を明確・迅速に示すように再三要請してきた。
- ・ あわせて、経済産業省、厚生労働省など基準をバラバラに定めないように、また、十分な説明、裏付けをして不安を解消するように要望してきた。
- ・ 事故後1か月が経過し、避難者が緊張状態からようやく落ち着きを取り戻しつつある時期に、さらに混乱を招くような情報、対応は困る。
- ・ 県民感情を十分理解した上で、しっかり対応してもらいたい。